

京都における工芸の民俗考古学的研究

A. メンバー

【事業推進担当者】 木立雅朗

【客員研究員】 岡本隆明

【PD】 山本真紗子

B. 研究目的

京都は伝統工芸の宝庫であるが、それに関わる様々資料は散逸しつづけている。京都の伝統工芸としてもっとも有名な京焼・西陣織・友禅染ですら、近年の社会情勢のなかで衰退を余儀なくされ、歴史資料の散逸がはなはだしい。また、これらに対する研究は美術史的、もしくは産業史的な検討が主体をしめ、基礎的資料の蓄積が不十分であった。そのため、本研究では伝統工芸に関わる考古学的・民俗学的な調査を進めながら、それらの基礎資料のデジタル化を進めることで研究を推進することを目標とする。窯業に関わる研究、および西陣織・友禅染の図案類の収集と検討を中心として、伝統工芸のもつ技術的連携についても検討する。

C. 本年度の成果

1) 篠窯跡群の分布調査

京都における窯業の歴史を検討するため、亀岡市篠窯跡群の分布調査を継続し、新たな遺跡の発見（下東山6号窯跡など）を行うなど、鶯ノ川右岸域の全体像を明らかにすることができた。また、採集遺物の実測・図版作成を行い、編年的検討も

目処がたちつつある。従来、平安京との関わりを重視されてきた篠窯跡群であるが、丹波における須恵器生産の開始が7世紀後半に遡り、それが鶯ノ川右岸域を中心にしてどのように変遷したのかを明らかにできた。従来の篠窯跡群の知見を変換させる資料になる。

2) 五条坂・道仙化学製陶所窯跡の出土品整理、および文書類・民具の検討

第5次発掘調査によって出土した窯跡の下層遺物を整理検討し、幕末～明治初めの京焼窯跡関連資料であること、窯の築造はそれ以降であることが明らかになった。幕末～明治初めの資料には京焼関連の窯道具類や失敗品が含まれ、空閑地に窯関連の資料が廃棄されたことや、五条坂において土人形を製作した可能性があることが判明した。これらの生産の内容は「五条坂」の従来のイメージをさらに豊かにするものであり、京焼像を改める重要な所見である。

また、道仙化学製陶所の戦前・戦後にかけての文書を整理し台帳を作成した。この文書の検討により、窯の最後の操業時期や、従業員の変化・生産停止の状況も明らかになった。さらに、戦前・戦後の貸し窯に関する記録が確認された。京焼独自の制度だと言われる「貸し窯」についてはじめての貴重な具体的資料として注目される。

さらに、浅見五郎助氏より寄贈を受けた棧板・亀板などの民具の計測を行い、その参考として藤平陶芸の資料も計測した。これによって五条坂独自の民具の形態・寸法の基礎資料を得ることがで

きた。また、五条坂において亀板の製作技法が背昭和10年代以降省力化されていることが明らかになった。瀬戸焼の民具の一部と比較した結果、瀬戸ではその後も丁寧な作りの亀板を製作しているため、窯業産地によってその状況が異なることが明らかになった。これは窯業産地の背景に控える他の手工業のあり方に起因していると考えられる。

これらの成果により、近現代の五条坂の様相、および京焼の近現代史を充実させる貴重な成果を得たと言える。

3) 京都における土人形と磁器人形

昨年度から検討をはじめた五条坂「かわさき商店」所有の磁器人形は、大正期を中心とした瀬戸焼であり、瀬戸焼西茨1号窯で類例の出土が確認されていることが判明した。それらの寸法と、近年、伏見区で出土した伏見人形の土型から推定復元した土人形の寸法を比較した結果、明治後半から大正初期頃の伏見人形の標準的寸法と瀬戸焼磁器人形の寸法が類似することが明らかになった。明治以降、伏見人形をはじめとする京都の土人形は大型化しはじめるが、瀬戸の磁器人形もその大きさに近い。伏見人形をはじめとする土人形は明治以降、西洋化や交通体系の変化によって衰退したと説明されてきたが、実際には瀬戸焼磁器人形との競合に破れて衰退した可能性がでてきた。瀬戸焼磁器人形は「インド人形」とも呼ばれ、輸出によって反映したものであり、それが全国の土人形に置き換わることで、土人形が淘汰された可能性が高い。伏見人形や五条坂における土人形・磁器人形の生産、および瀬戸焼の販売は、「人形における近代化」の具体的あり方を示している可能性がある。また、全国の土人形が衰退していく過程で、博多人形は具象性を帯びた近代化をとげて発

展するが、伏見人形は「徹底的な伝統回帰」によって生き残りをかけたことがわかる。それは伏見人形をはじめとする京都の「工芸」の「近代化」、すなわち「伝統工芸化」なのだと考えられる。

4) 友禅図案の整理とデジタルアーカイブ

収集した大量の近代友禅図案の整理作業を進め、ほぼ見通しを付けることができた。一部修復が必要なものが残されているが、すべてに整理番号をつけ、台帳を整備することができた。また、これらの整理に際しては、近現代の大量の資料を保存・活用するための現実的対応方法をとっており、友禅図案に限らず、近現代大量資料の今後の調査方法を検討する上で、ひとつのモデルケースになると想定される。そのため、その方法論について展示を行い、合わせて研究会を開催して意義を確認した(『近代をのこす、つたえる 立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理と活用』立命館大学衣笠アート・リサーチセンター、2011年10月17日～28日)。

D. 論文・学会発表以外の活動の記録

- 1) 篠窯跡群分布調査および出土品整理作業
2011年4月～9月考古学資料の整理検討
- 2) 五条坂・道仙化学製陶所出土遺物整理、および文書・民具調査
- 3) 磁器人形整理作業とデジタルアーカイブ
2010年5月～2012年2月
- 4) 友禅図案整理・デジタルアーカイブ作業
2011年8月～2012年3月
(友禅図案展示 2011年10月17日～28日。
『近代をのこす、つたえる 立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の

整理と活用』立命館大学アート・リサーチセンター)

5) 鳴滝乾山窯跡出土品整理作業
2011年8～9月

E. 業績一覧

〈著書（分担執筆）〉

木立雅朗「『韓国併合』を祝賀した友禅染」富田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ印刷, pp.58-73, 2012年3月

30日, Masaaki Kidachi, 'Yuzen Dyeing Works that Celebrated Japa's Annexation of Korea', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi, "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources*", Nakanishiya Shuppan, pp.176-194, 30 March 2012

木立雅朗「須恵器窯の歩き方—篠窯跡群分布調査のために—」立命館文学, 624, pp.25-40, 2012年1月

山本真紗子「立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理作業」富田美香, 木立雅朗, 松本郁代, 杉橋隆夫編『京都イメージ—文化資源と京都文化—』ナカニシヤ出版, pp.74-87, 2012年3月30日, Masako Yamamoto, 'Sorting of the Collection of Yuzen Designs and Related Materials at Ritsumeikan University's Art Research Center', Mika Tomita, Masaaki Kidachi, Ikuyo Matsumoto and Takao Sugihashi, "*Urban Image of Kyoto: Kyoto Culture and its Cultural Resources*", Nakanishiya Shuppan, pp.195-208, 30 March 2012

〈論文〉

【審査付き】山本真紗子「百貨店の図案創出における日本美術研究成果の影響—中井宗太郎と高島屋百選会の事例から—」Core Ethics, 8, pp.411-422, 2012年3月

〈口頭発表〉

木立雅朗「研究の現状と課題—問題提起と用語整理—」窯跡研究会第3回シンポジウム, 同志社大学今出川キャンパス(京都市), 2011年12月10日

【審査付き】木立雅朗, 米田浩之, 堀口智彦, 御山亮濟「現代京焼窯跡の考古学的検討—京都市五条坂・道仙化学製陶所窯跡の発掘調査と民俗調査—」一般社団法人日本考古学協会第77回総会研究発表, 國學院大学渋谷キャンパス(東京都渋谷区), 2011年5月29日(ポスター)

山本真紗子「明治時代の日本人美術商の海外進出」日本人の国際移動研究会, 京都キャンパスプラザ(京都市), 2011年6月18日

山本真紗子「近代京都の「風俗」画?—舞妓と大原女—」風俗画研究会, 立命館大学アート・リサーチセンター(京都市), 2011年7月30日

山本真紗子「立命館大学所蔵近代染織資料の整理作業」展覧会「近代をのこす、つたえる」関連研究会, 立

命館大学アート・リサーチセンター（京都市），2011年10月20日

Naomi Akaishi, Masako Yamamoto, 'Distribution of dyeing and weaving manufacturers from "Large-scale Maps of Kyoto City"', *The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures (DH-JAC2011)*, Ritsumeikan University(Kyoto, Japan), 19-20 November 2011(poster)

〈その他〉

《書評》

木立雅朗「岡佳子『近世京焼の研究』」京都民報, 2011年4月24日

《シンポジウム》

木立雅朗「京都文化研究班活動報告」第2回日本文化デジタル・ヒューマニティーズ国際シンポジウム (DH-JAC2011), 立命館大学衣笠キャンパス（京都市）, 2011年11月19日

《講座》

木立雅朗「新発見本町下高松通出土の伏見人形土型について」アスニー京都学講座・第229回京都市考古資料館文化財講座, 京都アスニー, 2011年9月24日

木立雅朗「汽車土瓶と陶器製地雷—信楽焼の戦後復興と戦争の関係—」草津市生涯学習大学「くさつ市民キャンパス」立命館びわこ講座, 立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県, 草津市）, 2011年10月29日

岡本隆明「東寺百合文書 その利用のいま・むかし」平成23年度京都府立総合資料館 歴史資料カレッジ後期, 京都府立大学本館 合同講義室棟3階 第3講義室（京都市）, 2012年3月15日

《展覧会》

山本真紗子『近代をのこす、つたえる 立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理と活用』立命館大学衣笠アート・リサーチセンター（京都市）, 2011年10月17日～28日

《新聞報道など》

木立雅朗, 山本真紗子「和柄の魅力 西陣、友禅 モダンの美 立命大展示 明治からの図案修復」京都新聞, 2011年10月17日朝刊

木立雅朗「近代をのこす、つたえる 立命館大学アート・リサーチセンター所蔵友禅図案資料群の整理と活用」KBS 京都ニュース, 2011年10月17日

木立雅朗「古都のバールに挑む—異色考古学者のまなざし—」TBS JNN ルポルタージュ報道の魂, 2012年1月8日